

灯台絵画コンテストで2年連続銅賞を獲得

豆酩小瀬分校の内山 藍さん

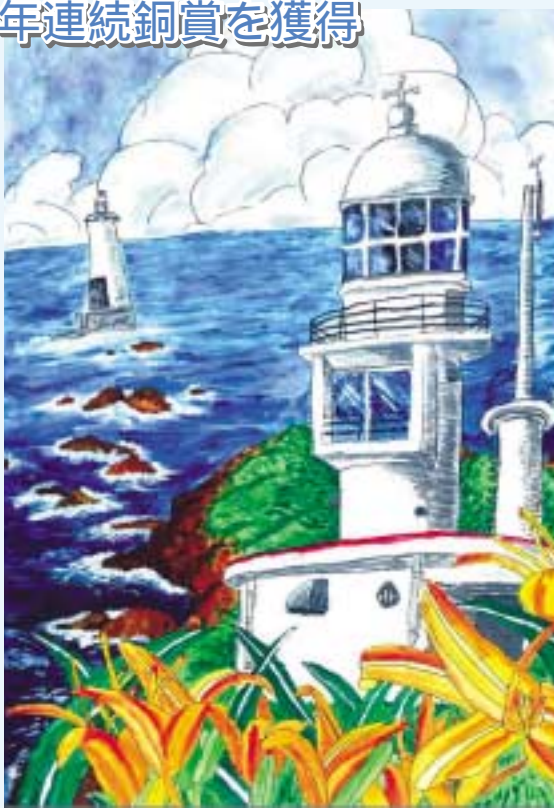
表彰状を手にする内山藍さん



航路標識を通じて海事思想の普及と広報活動を行っている(社)燈光会が主催した「灯台絵画コンテスト2007」で、豆酩小瀬分校4年生の内山藍さん(9)の作品「夏の豆酩崎」が、小学生高学年の部で銅賞を獲得しました。内山さんは昨年に続き2年連続銅賞受賞となります。

コンテストは、灯台記念日(11月1日)の関連行事として、全国の小中学生から灯台のある風景を募集して実施されているもので、今年は787点の応募があり、小学生高学年の部には289点の作品が寄せられ、金賞1点、銀賞2点、銅賞5点が選ばれました。

黄色に色づくハクウンキスゲが印象的な内山さんの作品は、去年豆酩崎を訪問した時に撮影した写真を見て描いたもので、灯台の影を描くのが難しく、海の遠近を色で表現するのを工夫したと話していました。この力作の製作期間はわずか3日だそうです。



「夏の豆酩崎」

韓国まで49・5 km
対馬から韓国釜山市まではわずか49・5 km。この距離の地は2箇所あることをご存知でしょうか。
ひとつは、「対馬最北端の地」上対馬町鰐浦です。ここには地理的・歴史的にも深い関係にある韓国の古代建築様式を取り入れた韓国展望所があります。また、元禄16年旧暦2月5日朝、釜山から対馬に向け出発した訳官使船



10月20日、上対馬町鰐浦の韓国展望所から撮影した釜山市(中央の丸い光は、釜山市で開かれた花火大会での花火です)

が鰐浦を目前に遭難するという悲惨な海難事故があり、その慰霊碑「朝鮮国訳官使殉難之碑」が、国境・官民の枠を越えて平成3年に建てられています。もうひとつは、「日本最北西端の碑」が整備されている上県町の棹崎公園です。ここには、戦時中に築かれた砲台跡が整備されているほか、72haを超える広大な公園の一角に、環境省の対馬野生生物保護センターがあります。大晦日には、2007年最後の夕日を見納めた後、対馬海峡西水道の奥49・5 km先に見える韓国釜山市の夜景をご覧になられてみてはいかがでしょうか。韓国に一番近い場所に位置する対馬でしか味わうことが出来ない贅沢な一時間が楽しめます。

【お知らせ】
観光交流課では、みなさんからの情報をお待ちしています。「こんなところがあるよ」などの情報がありましたら、ドシドシお寄せください。
対馬市役所観光交流課
0920(53)6111
FAX 0920(53)6122
メールアドレス asightseeing@city-tsushima.jp